

二〇一四年五月一六日

昏れかぬる谷戸の夕空遠蛙
若葉風エアロビクスのカーテンに
鳥除けは古りし漁網や豌豆畑
杖取れてつばな流しの試歩の道

よし子
満天
よし女
菜々

二〇一四年五月一五日

葉裏見せ風に遊べる新樹かな
植終へし田に合掌す老夫婦
薔薇香る洋館風の邸宅に
ジョギングす茅花流しに背を押され
あふれ咲く袖に成り年確信す

みちほ
かかし
さつき
こすもす
ともえ

二〇一四年五月一四日

緑陰に夫と二人のティータイム
つばくらめ雨意兆すとぞ田を掠め
夏めくや大きピアスの一少女
新緑に映ゆは学舎の赤き屋根
少女らはスマホに夢中薔薇を見ず

よし女
雅流
はく子
さつき
菜々

二〇一四年五月一三日

指呼されし高きに朴の一番花
神にます大盤石や木下闇
パノ라마の緑に命洗ひけり
田植機のラジオの楽はモツアルト

三刀
ぽんこ
さつき
かかし

更衣母の齢を越えにけり

つくし

山頭火句碑の辺花菜明かり射す
夏めくや淀滔滔と藍深め
駈けて来る双子の少女夏帽子

よし女
菜々
つくし

二〇一四年五月二日

ドリーネの底まで埋む若葉かな
母の日や男料理をもて感謝
余花咲いて立山いまだ峰白し
愛鳥日常と変らず雀に餌
若葉影風にゆらめく石畳

さつき
せいじ
ともえ
ひかり
菜々

二〇一四年五月一日

立ち話して溝浚えはかどらず
見つめ合ふ仔牛と仔牛若葉風
母の日や詐欺にはあらず子の電話
蟻すすむ身の丈越ゆる餌を担ぎ

満天
みちほ
よし女
あさこ

二〇一四年五月一〇日

囀や鈴音のごとく鳴くは何
悉く水張り終えし千枚田
バギー車にみどりご睡る樹下涼し
大人びし娘眩しき更衣

みちほ
かかし
せいじ
宏虎

毎日句会みのる選・二〇一四年五月一八日